

2013 年度一般研究助成

地域社会における薬物事犯者の再犯防止支援

研究代表者 尾田 真言 (アジア太平洋地域アディクション研究所)

➤ 研究の概要 (助成開始時)

研究概要本文 多くの先進諸国では法律で禁止されている薬物を使用したり、使用するために所持する行為をした者に対しては、できるだけ刑務所に入れないようにして、社会内で監督していこうとする潮流にあります。

ところが日本では、初犯者に対しては、執行猶予判決が付されて、そのほとんどが薬物乱用問題の解決に向けた働きかけが何もないまま、社会に戻される一方で、再犯者に対しては懲役の実刑判決が下されて、刑務所に収容されます。ところが刑務所の中や出所後の社会内では薬物をやめるのに必要な治療プログラムは不十分です。

初めて逮捕された時こそ薬物使用の問題に介入する絶好のチャンスなのですが、初犯の薬物自己使用事犯者は社会に戻されるだけで、多くの人がいずれ再使用し、再逮捕されて、刑務所に収容されてしまいます。

そこで、地域社会において初犯者の逮捕時に介入できるプログラムとして、驚異的な効果をあげ近年国際的に注目されている米国ハワイ州の刑事司法手続で実施されている HOPE (Hawaii's Opportunity Probation with Enforcement) と呼ばれる介入プログラムを調査し、HOPE をベースとしたサービスを日本で実施するための方策を検討します。

➤ 選考委員会からのコメント

今までの実績を高く評価する。米国ハワイ州の HOPE をベースとしつつも、我が国の覚せい剤事犯初犯者に対しての独自の介入プログラムの開発を期待する。さらなる評価を獲得していただきたい。